

### 3 熊本県天草市上田家文書調査

東 昇

#### 1. 天草市の現地調査

天草市の上田家文書は、幕府領肥後国天草郡高浜村の庄屋文書で、約 7000 点の文書群である。1997 年以来調査を継続し、研究成果として 2016 年『近世の村と地域情報』（吉川弘文館）を刊行している。2018 年度から科学研究費助成事業に採択され、「近世村落文書の目録再編成による地域情報の構造分析」というテーマで、今年度も引き続き調査を進めた。

今年度の調査は、2020 年 9 月 16 日～20 日の 5 日間、天草ロザリオ館、上田家資料館、熊本県立図書館において調査補助有賀陽平氏（博士前期課程 2 回生）と実施した。天草ロザリオ館（天草市）では、上田家文書のうち分散保管されている文書の調査を行い 561 コマ撮影した。上田家資料館（天草市、上田陶石合資会社内）では、上田家文書中の上田宜珍、順一郎の庄屋交代期（文化 15 年（1818）～文政 2 年（1819））の文書を調査選定し、2008 コマ撮影した。また、稲津貴久学芸員（天草市天草キリシタン館）と今後の調査計画について検討した。

19 日くまもと文学・歴史館（熊本市）において服部英雄館長と、今後の調査・研究について話し合った。20 日熊本県立図書館において、県内の自治体史調査を行い、上田宜珍同時期の天草に隣接する熊本藩の領民層の日記資料を調査した。阿蘇宮司家来長野家の「長野内匠日記」資料を収集し、今後比較分析する。

#### 2. 文書間の連携分析

天草市の現地調査成果をもとに、上田宜珍、順一郎の庄屋交代期である文化 15 年の日記、出勤録、御用書留帳の記述内容の連携に関する分析を進めた。その成果を、「近世後期天草郡高浜村庄屋日記と御用書留帳・文書の連携」（『京都府立大学学術報告（人文）』72、2020.12）としてまとめた。



写真 1 文書調査の様子